

会報

・ 94 第119、120合併号

関西ハーモニカ連盟



涼

- † 関西ハーモニカ祭り募集要項.....表紙
- † 関西ハーモニカ連盟の生い立ちから
今日までの経過..... P 1
- † 平成5年度総会、役員会事業経過報告..... P 4、5
- † 本年の事業計画案..... P 5
- † 新役員名簿..... P 6
- † ハーモニカの故郷へ行って来ました..... P 7
- † HOW TO ENJOY ENSEMBLE(11)..... P 10
- † 楽しきかな、わがハーモニカ人生 第七話..... P 15
- † 今後の予定..... P 19

関西ハーモニカ連盟の生い立ちから 今日までの経過

1993年12月23日

吉森正隆

関西ハーモニカ連盟は、昭和54年6月2日平口謙二（現常任顧問）の肝いりで、同志44名の参加を得て結成され、翌年昭和55年5月24日大阪郵便貯金会館にて華々しく創立記念コンサートを開催致しました。ソロは、平口謙二、西田幸司、渡辺 斉（故人）小林忠夫、松本幸司、新井善久、真田茂夫（故人）、吉森正隆、鈴木弘道（故人）、合奏は関西ハーモニカ・ポップス指揮、白鳥達夫、京都リード・カルテットとそのアンサンブル、出演者全員による合同合奏は、指揮は、会長の井上隆壽（故人）で、ユーカサス風景より「酋長の行列」、と多彩なプログラムで、満場を沸かせました。尚、司会は、水上 舞でした。

第2回の演奏会は、昭和56年4月19日、尼崎の新響楽器ホールで、ソロのみの演奏会で、出演者は島田智和、豊島良和、松本幸司、島田富士枝、板村忠重、吉森正隆、坪田康男、船井伯郎、亀崎 桂、村上浩一、吹上晴彦、向川駒雄、藤山孝太郎、吉年謙介、西田幸司、渡辺 斉（故人）で司会は平口謙二でした。

第3回は昭和57年4月18日、神戸三宮KCCホールで開催、ソロは、平口謙二、船井伯郎、吉年謙介、渋谷恒晴、西田幸司、坪田康男、村上浩一、松本幸司、小林忠夫、豊島良和、中村一郎（故人）、藤原邦夫（故人）、岡村貞彦、渡辺 斉（故人）、吉森正隆藤山孝太郎、京都カルメンの（カルテット）と合奏、関西ハーモニカ・ポップスと、合同合奏は、古賀政男メドレーで、ともに白鳥達夫指揮、司会は竹内美保子でした。

第4回は昭和58年5月14日、大阪、国際楽器ホールで開催、ソロは小林忠夫、平口謙二、山広延良、渋谷恒晴、水井一雄、坪田康雄、中村一郎（故人）、上本 洋、島田松雄、村上浩一、岡村貞彦、豊島良和、吉年謙介、織田太郎、藤本初之助、後藤貞男、松本幸司、西田幸司、吉森正隆、他に、京都カルメン、関西ハーモニカ・ポップスは一部、二部、に出演、合同はめだかの兄弟で共に、白鳥達夫指揮、司会は竹内美保子でした。

第5回は、昭和59年5月26日、神戸国際会館ホールで開催、ソロ出演者は、船井伯郎、寺田敏雄、渋谷恒晴、藤本初之助、山広延良、豊島良和、上本 洋、岡村貞彦、織田太郎、後藤貞男、鈴木弘道（故人）、平口謙二、渡辺 斉（故人）、小野繁雄、村上浩一西田幸司、中村一郎（故人）、吉森正隆、合奏は、二部にわたって、関西ハーモニカ・ポップスが演奏、司会は松田 希、特別出演として森

本恵夫先生の演奏がありました。

第6回は、昭和60年10月12日、京都商工会議所ホールで開催、ソロは吉野洋行、木村英雄、畑 婦美子、船井伯郎、寺田敏雄、藤本初之助、後藤貞男、村上浩一、織田太郎、吹上晴彦、新井善久、小林忠夫、山村信彦、上本 洋、岡村貞彦、西田幸司、松井一昇、坪田康雄、吉森正隆、蔭山孝太郎、トリオは京都ペガサス、カルテット、京都カルメン、合奏は京都佐秀会、関西ハーモニカ・ポップス指揮は白鳥達夫、司会は飯島珠美でした。

昭和60年(1985年)の定期演奏会後、組織上のトラブルがおこり、連盟のコンサートは1990年まで中断されました。

1987年8月大阪、天王寺博覧会が催され、連盟としても、各地のサークルが出演を致しました中でも、連盟の中核である、関西ハーモニカ・ポップスはその傘下のジョリー・トリオ、オリオン・カルテット、と合奏、ソロと多彩なプログラムで聴衆を魅了しました。

1988年10月、関西ハーモニカ・ポップスは、連盟の中核であるとの考えにたって、名称を関西口琴合奏団として、酒井涼爾会長を団長として、姉妹都市の奈良市長のメッセージを持って、中国、西安音楽院の音楽庁で1000人を越える満員の聴衆の喝采を浴び、また、万里の長城での演奏、北京口琴協会の会長、任 虹氏との交流等、国際親善の成果を上げました。NHK、奈良テレビでも放映されました。

1990年1月長らく途絶えておった連盟の役員会に漕ぎつけ、仲村 眞 新理事長の誕生となり、連盟の活動は、規約改正も併せて、組織運営の軌道に乗り、華々しく、新発足しました。まず皮切りに、同年5月佐渡、長岡への演奏旅行が企画され、森本恵夫先生の特別参加もあり、総勢40名のツアーとなりました。佐渡では、佐渡島開発総合センターで、満員の観客に迎えられ、出演者は大張りきりでした。佐渡では関西ハーモニカ連盟の単独公演でしたが、長岡はホテル・ニューオータニNCホールで開催、第2部の独奏は、長岡、新潟からの出演者と交互出演で楽しいひとときでした。第一部はポップスの合奏で、佐渡の幻想、越佐海峡等、ご当地ものを白鳥さんのアレンジ指揮で演奏、三部は重奏、他に森本恵夫先生の演奏、全員合奏など参加者全員が何らかの形で出演し、懇親会も大きな盛り上がりを見せ、時間をぎりぎりまで延長しましたが、名残が尽きませんでした。参加者の中で現在故人になられた方は、真田 茂、上野忠彦の両氏、新潟ではこのときロシアのコンテストで優勝して帰国されたばかりで、ロシア民謡メドレーの名演奏を聞かせて下さった目黒秀雄さんがその後まもなく亡くなられたが私事ながら筆者とは、全日本ハーモニカ連盟の総会では何時もお会いし、また北京、上海、シンガポール等の演奏旅行もご一緒ただけに誠に残念でした。

1990年6月30日、大阪で開催された「花と緑の博覧会」に、関西ハーモ

ニカ連盟として参加が決定し、合奏の関西ハーモニカ・ポップスと、各種重奏団、クロマチック、複音の名手のソロ等、大変な盛り上がりを見せ、会場の「咲くやこの花館」のホールの聴衆を釘付けにしました。

1990年9月29日、大阪コスモ証券ホールで、1985年以来中断されておりました連盟コンサートを「第一回、関西ハーモニカ祭」として開催、東京六重奏団、森本恵夫先生の応援を得て、従来のハーモニカコンサートの殻を打ち破った、壮大なスケールの祭りとして、独奏、クロマチック、複音、伴奏つき、重奏、合奏等、プログラム48番まで長時間にわたって、ハーモニカの魅力の全てを披露しました。司会は嶋津寛子でした。

1991年5月25/26日、九州ハーモニカ連盟との合同コンサートを、福岡、山の上ホテルのホールで開催、出演者多数の為、第一目は福岡、長崎等の演奏を主とし、前夜祭では双方入り乱れての、パフォーマンスもあり、快い酔いを誘った。コンサート当日は、関西ハーモニカ連盟の全員のソロ、オリオン、ジョリー、バッカス等のアンサンブル、関西ハーモニカ・ポップスの合奏と特別参加の森本恵夫先生の出演、司会は地元の渡辺 恕長崎与左衛門の両氏が、ユーモアたっぷりに勤めました。

1991年9月29日、大阪コミュニティー・プラザホールにて、第2回、関西ハーモニカ祭を開催、東京より、当連盟の特別顧問、森本恵夫、斎藤壽孝、両先生をお招きしてプログラム47番の大盛会でした。司会は嶋津寛子でした。

1992年10月11日、奈良市ならまちセンター・ホールで第3回、関西ハーモニカ祭を開催、アンサンブル、合奏は、15団体と増加、プログラムも58番という大コンサートとなりました。司会、嶋津寛子。

1992年10月31日、関西ハーモニカ連盟有志と関西ハーモニカ・ポップスと合同で台湾へ演奏旅行を実施、これは、同年8月吉森正隆が、第一回台湾口琴節に審査員として招請された際に、取り決めたもので、初日は、高雄、中正文化中心至善廳ホールで開催高雄、口琴協会のメンバーと交換演奏を夜遅くまで繰り広げられました。

1992年11月1日、同上、会場を台北、中央日報大礼堂に移して、台北口琴協会との交換演奏、最後に、日中合同大合奏「旧友」で幕を閉じました。この模様は連盟会報114号115号に吉森正隆の詳細なレポートを掲載しております。1993年10月2日、連盟有志と関西ハーモニカ・ポップスとで、和歌山県かつらぎ町の文化会館のこけら落としに出演、9月23日に亡くなられた、上野忠彦さんの故郷でこれを企画、出演を楽しみにしておられましたが、残念ながら、不帰の客となりました。演奏は、非常に評判が良く、来年もまたと云うことでした。

1993年10月10日、和泉市コミュニティーセンターで第4回関西ハーモ

ニカ祭りを開催、プログラム46番、吉森正隆の地元と言うことで、朝日、読売、サンケイの3紙に写真入りで大々的に報道されました。当日の司会者は、嶋津寛子でした。

以上が関西ハーモニカ連盟の発足から、今日までの経過のあらましです。当初は、定期演奏会の出演者も少なく、名前を書き留めましたが、ハーモニカ祭りとなってからは、出演者多数で、当時のプログラムを参照して下さい。それにしても優秀なハーモニカ奏者が多数、故人になられたことは、誠に残念で、哀悼の意を表したいと思います。今後、1994年度は、1月15日の連盟定時総会で決定される事業計画に基づき、また1995年度は、ハーモニカ渡来100年祭協賛事業として、多彩なプログラムが組まれて、ハーモニカ愛好者の輪を広げて行くものと期待して、本稿をさしおきます。



平成5年度

総会、役員会

事業経過報告

平成5年1月17日

総会、役員会、懇親会
出席者 38名

大阪けいさつ会館

2月15日

役員会（常任理事、常任顧問）
出席者 18名

福田診療所

- ◇ 第4回関西ハーモニカ祭りの開催について
- ◇ 演奏旅行、他地区との合同演奏会について
- ◇ 研修会、講習会の実施について
- ◇ アンサンブル祭りについて

4月14日

役員会 出席者 13名

福田診療所

- ◇ 第4回関西ハーモニカ祭りの開催について
- ◇ 合同演奏会（演奏旅行）の実施について
- ◇ 講習会（ハーモニカ修理）の実施について

平成6年度 役員会、総会から-----本年の事業計画案

- ◇ 国際交流会 5月2日、台湾から来阪（先方都合で取りやめ）
- ◇ 関西ハーモニカ祭りの開催
9月23日（金-秋分の日）
場所：神戸市 兵庫県民会館
詳細は後日決定
- ◇ ハーモニカ修理講習会の開催
前回好評であった。本年も開催希望の声が多い為、
開催。詳細は後日決定
- ◇ 他地区交流演奏会
詳細未決定

-
- ┌
└
- 平成5年8月7日 役員会 出席者 14名 福田診療所
 - ◇ 第4回関西ハーモニカ祭りの開催について
 - ◇ 講習会の実施について
 - ◇ 平成6年度役員を選任について
 - ◇ 平成6年度第5回ハーモニカ祭りについて
 - ◇ 平成7年度開催の世界ハーモニカフォーラムについて
 - ◇ ハーモニカ祭りでの看板の作成費、PA担当の日当について
 - ◇ 全日本ハーモニカ連盟フォーラム参加者の連盟補助について
 - 9月14日 ハーモニカ修理講習会 参加者 24名
福田診療所
 - 10月2日 かつらぎ町立ホール完成、オープン記念特別出演
関西ハーモニカ・ポップス および有志
 - 10月10日 第4回関西ハーモニカ祭り
独奏32名、アンサンブル、2重奏13団体
出演者総数、156名
 - 12月12日 役員会 出席者15名 福田診療所

平成6年1月15日

理事長		仲村 眞	理 事	(事業部担当)	青木 聡
副理事長		上本 洋	同	(指導部担当)	梅田 恒弘
副理事長		西田 幸司	同	(事業部担当)	梅本 醇子
常任理事			同		岡村 貞彦
同	事務局長	新井 善久	同	(事業部担当)	神戸 栄一郎
同	編集局長	後藤 貞男	同	(編集局担当)	金川 一
同	指導部長	白鳥 達夫	同	(事業部担当)	久保田 隆
同	事業部長	飛田 保雄	同	(指導部担当)	田代 敏胤
同	会計部長	後藤 貞男	同	(事業部担当)	谷口 昌子
常任理事	(会計部長補佐)	板村 忠重	同	(事業部担当)	寺村 安雄
同	(編集局長補佐)	今井 康郎	同	(事業部担当)	中川 敬一
同	(編集局長補佐)	宇佐美 進	同	(事業部担当)	長浜 忠夫
同	(指導部長補佐)	織田 太郎	同	(指導部担当)	西本 豪介
同	(事業部長補佐)	水井 一雄	同		畑 婦美子
同	(指導部長補佐)	村上 浩一	同	(会計部担当)	吹上 晴彦
同	(事業部長補佐)	村田 潤	同	(指導部担当)	松川 義明
同	(事業部長補佐)	山村 信彦	同		中西康四郎
同	(事務局長補佐)	屋嘉比盛行	常任顧問		蔭山孝太郎
同	(東京支部長)	吉村 則次	同		酒井 涼爾
同	(事業部長補佐)	渡辺 昇	同		吉森 正隆
同	(編集局長補佐)	和谷 篤樹	同		平口 謙二
同		楠 陽児	同		小林 忠夫
同		吉見 忠	顧問		藤本初之助
			特別顧問		森本 恵夫
			同		斎藤 壽孝
			同		徳永 延生

ハ、モニカの故郷へ行ってきました

トロシゲン世界ハーモニカ祭りに参加して...

吉村 則次

ついにトロシゲンに

ドイツのトロシゲン、ここで約150年前、最初のハーモニカが作られたと言われています。

また世界最大のハーモニカメーカー、ホーナー社がここにずっと本社と工場を置いて、世界へ向けて各種のハーモニカを送り出しています。

ドイツの西南部、スイスおよびフランスに近い小さな町にこのトロシゲンはあります。人口 13,772人の小さな町です。

ハーモニカを始めて数十年、私がいつかは行ってみたいと思っていた町です。今年ついにこれが実現することができました。

私は日本からの団体には入らずに、単独でスイスのチューリッヒ空港経由で、列車で行きました。ドイツのフランクフルトからではなく、これが最短ルートなのです。

ここで4年毎に世界ハーモニカ祭りが開かれます。いわばハーモニカの世界オリンピックのようなものです。

93年はその当たり年にあたり、9月15日(水)から19日(日)までの4泊5日で、世界から約1000名が参加して行われました。

日本からは斎藤壽孝氏を団長として46人が参加、関西からは和谷篤樹氏をリーダーとする京都カルテット、宇治市の飛田保雄氏、それに私が参加しました。

優秀な成績を残した日本勢、関西の京都カルテット、飛田保雄氏も頑張る

コンテストは複音ソロやクロマチックからオーケストラまで10種類、それぞれが成人と少年少女に分かれましたので合計20種類のものが毎日、3-4個所で同時に行われました。

「グループ」の部門では我が京都カルテットが、またまたファタ・モルガーノを相手に優勝。最大の快挙でした。

前回デトロイトでも森本恵夫氏等のファンタスティックが、同じくファタ・モルガーノを相手に優勝。今回は連続優勝となりました。

このファタ・モルガーノと言うのはオランダのグループで、前々回までずっと優勝を重ね、テープも発売されており、プロともいえるグループで、それだけに京都カルテットの勝利は値打ちのあるものでした。(ちなみにハーモニカのコンクールではプロ、アマの区別はありません。)

数箇所に分かれて同じ時間にコンクールが行われるので、一人が全部は聞けないわけで、私は複音のコンクールの審査員となっていた岩崎重昭氏の通訳として複音のコンクール会場にいましたので、残念ながら京都カルテットの演奏もファタ・モルガーノの演奏も聞くことができませんでした。ぜひ日本で京都の演奏を聞きたいものです。

しかしファタ・モルガーノを相手に優勝したと言うのですから、素晴らしさがわかるようです。

複音ソロでは16人が参加しました。宇治市の飛田保雄氏も優秀な成績をあげられました。

関西以外では、東京の薮谷氏が複音優勝。2位は同じく東京の水野氏。複音はアメリカやヨーロッパでは殆ど演奏されておらず、日本の一人舞台となっています。もっとも中国、台湾、韓国、マレーシアでも愛好者がいますが、コンクールを見る限りでは日本以外はまだまだのようです。

東京の吉田有信氏がブルースハーブのフォーク・アンド・カントリーの部門で優勝したのが非常に偉大なことでした。

ブルースハーブは絶対的にアメリカ又はフランスが強く、これからも日本は到底と言う感じさえしていましたが、それだけに素晴らしいことでした。

これからはブルースハーブの面でも日本は世界から注目されていくことでしょう。

あのラリー・アドラーも出たガラ・コンサート

世界ハーモニカ祭りのもう一つの呼び物は、毎日行われるガラ・コンサートです。今回は前回に引き続きラリー・アドラーが出演しました。またブルースハーブのハワード・リビィ、ジャズのウイリアム・ガリソン、トリオのコン・プリオも出ました。

和谷泰扶氏も出て30分演奏されました。これらが聞けたと言うだけでも数十万円払ってドイツまで行った値打ちがありました。

これらのプロさんも大会期間中は、そこらへんをぶらぶらして誰とでも話をしています。「ハーモニカの愛好者は世界中皆一つの家族です」と言うことがひしひしとわかる世界でした。



写真左からファクモルダノの人、私、ファクモルダノの人、岩崎、ホアヤセン、ドロールアトラー(アトレートリオ)
岩崎重昭氏の複音セミナーにも多く集まりました

祭りのもう一つの柱は、セミナーです。毎日同時に3つぐらいのコースが場所を替えて行われていました。

ハワード・リビィのテン・ホールセミナー、ガリソンのジャズセミナー、トリオのセミナー、それに我が岩崎重昭氏の複音セミナー、等々。

複音セミナーでは、名古屋の石川澄男氏、東京の間中 勸氏が手伝われ、デモ演奏を行われました。

複音の音のきれいさ、和音の素晴らしさにひかれる外国人も多く、複音のセミナーにも多く集まりました。主としてドイツ人でした。

トロシンゲンは、人が道を横切ろうとすると車が止まってくれる世界です。

音楽学校があちこちにあり、小さい町ながら大きな楽器店、ピアノ専門店、バイオリンとチェロの専門店があります。ベートーベン通り、パッハ通りなど作曲家の名前を付けた通りが20ぐらいあります。

世界でただ一つのハーモニカ博物館がここにあり、いままで生産されたすべてのハーモニカが3階建の中に陳列されています。

佐藤秀廊氏の楽譜や、真野泰光氏の記録も残されています。

工場見学に行って素晴らしい製造設備に感心してきた人もいました。

騒音は自動車の音ぐらいで、教会の鐘が町に響くと言うところ。もちろんスピーカーでかなり立てる商店も政治団体もちり紙交換もありません。

さいわい5日間天気にも恵まれ、みんな思い出深い、いい日々を過ごしました。

遠いドイツの不便な片田舎ですが、ハーモニカを愛する人は、ぜひ行っていただきたい町でした。

白鳥 達夫

$\downarrow = 88$

高 $\frac{3}{4}$	$\dot{2}$	$\# \underline{\underline{1. 7}}$	$6 \cdot$	$\underline{5}$	$\# 4$	3	$2 \cdot$
中 $\frac{3}{4}$	$\# 4$	$\underline{6. 5}$	$\# 4 \cdot$	$\underline{7}$	$6 \cdot$	$\underline{5}$	$\# 4 \cdot$
和 $\frac{3}{4}$	D	$\underline{1. 1}$	D \cdot	\underline{G}	D	A7	D \cdot
低 $\frac{3}{4}$	2	$\underline{2. 2}$	$2 \cdot$	$\underline{5}$	6	6	$2 \cdot$

さんびかの「もろ人こそりて」の冒頭部分ですが、二長調で書いてあります。

2 3 #4 5 6 7 #1 2

が二長調の音階ですが、高音部のメロディはちょうどその音階を逆の順でたどっています。いずれにしても、高音、中音ともに吸う音が多いので二長調と言うのはハーモニカ吹きには嫌われ者です。ですから、

高 $\frac{3}{4}$	1	$\underline{7. 6}$	$5 \cdot$	$\underline{4}$	3	2	$1 \cdot$
中 $\frac{3}{4}$	3	$\underline{5. 4}$	$3 \cdot$	$\underline{6}$	$5 \cdot$	$\underline{4}$	$3 \cdot$
和 $\frac{3}{4}$	C	$\underline{1. 1}$	C \cdot	\underline{F}	C	G7	C \cdot
低 $\frac{3}{4}$	1	$\underline{1. 1}$	$1 \cdot$	$\underline{4}$	5	5	$1 \cdot$

のようにハ長調に直してしまえば楽に吹けます。しかし独唱や合唱と共演する時は二長調でないと声に張りが出ないので、一応二長調の性質も覚えておいて下さい。

音階は4と1に#がつく。(ト長調より一つ多くなる。)

主和音は D 2 #4 6

下屬和音は G 5 7 2

屬七和音は A7 6 #1 3 5

♩ = 120

高 $\frac{3}{4}$	<u>6 6 7[#] i</u>	<u>6[#] i 7 3</u>	<u>6 6 7[#] i</u>	<u>6 [#]5 3</u>	<u>6 6 7[#] i</u>
中 $\frac{3}{4}$	<u>6 6 7[#] i</u>	<u>6[#] i 7 3</u>	<u>6 6 7[#] i</u>	<u>6 [#]5 3</u>	<u>6 6 7[#] i</u>
和 $\frac{3}{4}$	<u>0 A 0 /</u>	<u>0 A 0 E₇</u>	<u>0 A 0 /</u>	<u>0 A 0 E₇</u>	<u>0 A 0 /</u>
低 $\frac{3}{4}$	<u>6 0 3 0</u>	<u>6 0 3 0</u>	<u>6 0 3 0</u>	<u>6 0 3 0</u>	<u>6 0 6 0</u>

<u>2[#] i 7 6</u>	<u>[#]5 3[#] 4 5</u>	<u>6 6 6 0</u>	<u>2[.] 2[.] 2[.] 2[.]</u>	<u>2[.] 2[.] 2[.]</u>
<u>2[#] i 7 6</u>	<u>[#]5 3[#] 4 5</u>	<u>6 6 6 0</u>	<u>[#]4[.] 4[.] 4[.] 4[.]</u>	<u>[#]4[.] 4[.] 4[.]</u>
<u>0 D 0 /</u>	<u>0 E₇ 0 /</u>	<u>0 A 1 0</u>	<u>D[.] / / /</u>	<u>D / /</u>
<u>2 0 2 0</u>	<u>3 0 3 0</u>	<u>6 0 6 0</u>	<u>[#]4[.] [#]5 4 3</u>	<u>[#]4[.] [#]5 6</u>

<u>[#]1[.] 1[.] 1[.] 1[.]</u>	<u>[#]1[.] 1[.] 1[.]</u>	<u>6[.] 6[.] 6[.] 6[.]</u>	<u>6[.] 6[.] 6[.] 6[.]</u>	<u>6 6[#] 5 5</u>	<u>6 0 6 0</u>
<u>3[.] 3[.] 3[.] 3[.]</u>	<u>3[.] 3[.] 3[.]</u>	<u>2[.] 2[.] 2[.] 2[.]</u>	<u>2[.] 2[.] 2[.] 2[.]</u>	<u>[#]1[.] 1[.] 2[.] 2[.]</u>	<u>[#]1[.] 0[.] 1[.] 0[.]</u>
<u>A[.] / / / /</u>	<u>A / /</u>	<u>D[.] / / / /</u>	<u>D / / / /</u>	<u>A / E₇ /</u>	<u>A 0[.] / 0[.]</u>
<u>3[.] [#]4[.] 3 2</u>	<u>[#]1 2 3</u>	<u>[#]4[.] [#]5 4 3</u>	<u>[#]4[.] [#]5 6 4</u>	<u>3 6[#] 5 7</u>	<u>6 0[.] 6 0[.]</u>

アメリカ民謡の「ヤンキードゥードル」 別名「アルプス一万尺」ですが、イ長調です。後半の8小節でメロディは低音部に移っていますのでご注意ください

6 7 [#]1 2 3 [#]4 [#]5 6

前回でご説明したト長調と今回のニ長調、イ長調を整理して並べて見ましょう。

ト長調	5 6 7 1 2 3 [#] 4 5	# 1 個
ニ長調	2 3 [#] 4 5 6 7 [#] 1 2	# 2 個
イ長調	6 7 [#] 1 2 3 [#] 4 [#] 5 6	# 3 個

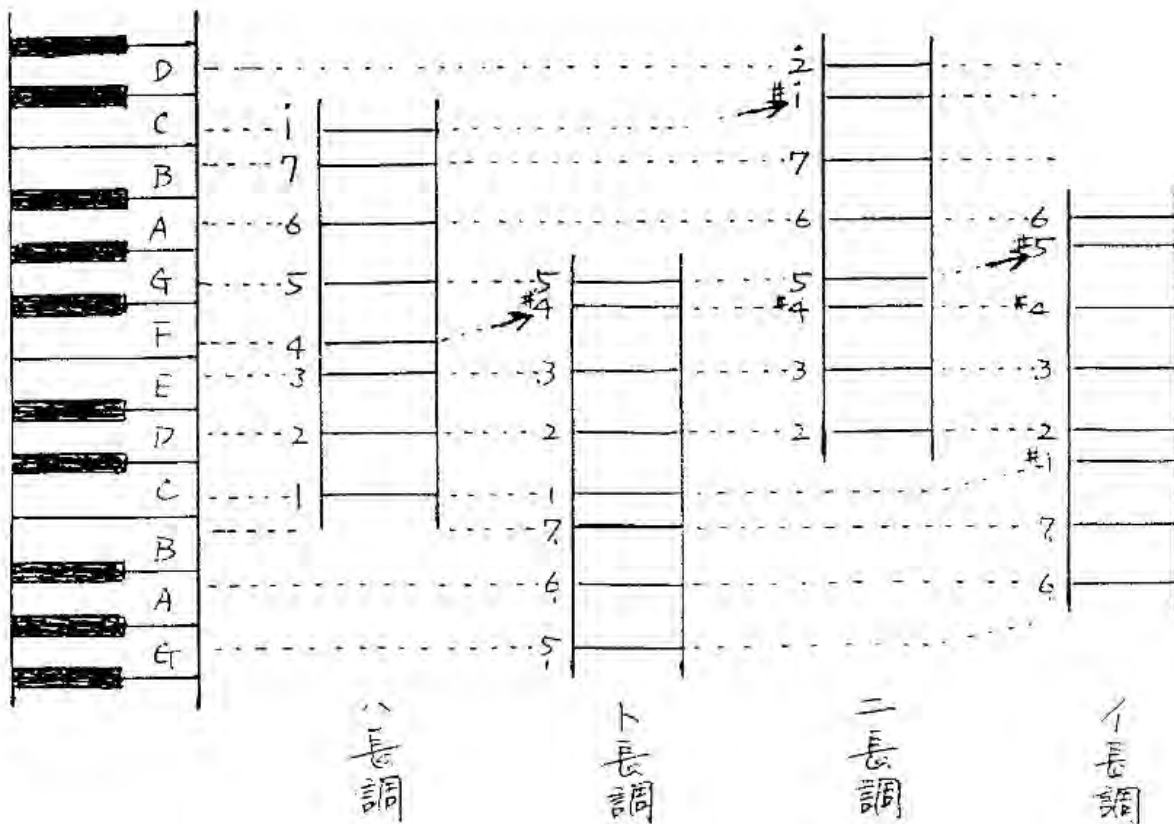
五線譜の調子記号で見ると、

ト長調 二長調 イ長調



のように順次#記号が増えて行くのがおわかり頂けると思います。ト長調では、4に#が付き、二長調では1に、イ長調では更に5に追加されています。

この事は前回で使用しました音階を梯子式に見立てた図表で確認するのが一番わかりやすいと思いますので、ぜひご研究下さい。



ヴェルディのオペラ「アイーダ」第3幕に出てくる「勝利の行進」をトリオで編曲しました。これもイ長調ですが [C] の部分だけハ長調に転調しています。[A]の部分と見比べて頂くと面白いと思います。中音部も高音部と同じメロディを重ねて頂ければ結構です。

[A]

高C 3	6 — 7 3 7	# 1 1 1 2 6	# 1 7 6 0	7 # 1 1 7 6 0 7 1
和C	0 A 1 / E7	0 A 1 / /	0 E7 0 A	0 E7 A 0 E7
低C 0	6 0 —	6 0 —	3 0 6 0	3 0 3 6 0 3

# 1 7 1 1 6 7	7 — 0 3	# 1 7 1 1 7 1 7	6 0 0 6 3 6
A 0 E7 C# 0 F#	B7 — 0 —	A 0 E7 C# 0 E7	A 0 1 1 1 0 1 0
6 0 3 # 1 0 # 4	7 — 0 —	6 0 3 # 1 0 3	6 0 —

[B]

7 3 3 — 6 3 6	7 3 3 — 6 3 6	7 3 3 — 3 7 7	7 3 3 3 3 3 3 3
0 E7 0 Am	0 E7 0 Am	0 E 0 B7	E 0 0 E7
3 0 6 0	3 0 6 0	3 0 7 0	3 0 0 3

6 — 7 3 7	# 1 1 1 2 6	# 1 7 6 0	7 # 1 1 7 6 0 7 1
A 0 1 1 / E7	0 A 1 / /	0 E7 0 A	0 E7 A 0 E7
6 0 —	6 0 —	3 0 6 0	0 3 6 0 3

[C]

# 1 7 1 1 7 1 7	6 0 6 6 6 0 5	1 — 2 5 2	3 3 3 3 1 1
A 0 E7 C# 0 E7	A 0 1 1 1 0 G7	0 5 1 0 G7	0 C 1 / /
6 0 3 # 1 0 3	6 6 6 6 5	1 0 —	1 0 —

$\overset{\sim}{3} \cdot \overset{\sim}{2} \cdot \overset{\sim}{1} \cdot \overset{\sim}{0}$	$\overset{\sim}{2} \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{2} \cdot \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{2} \cdot \overset{\sim}{3}$	$\overset{\sim}{3} \cdot \overset{\sim}{2} \cdot \overset{\sim}{3} \cdot \overset{\sim}{3} \cdot \overset{\sim}{1} \cdot \overset{\sim}{2}$	$\overset{\sim}{2} \quad \text{---} \quad \overset{\sim}{0} \quad \overset{\sim}{5}$
$\overset{\sim}{0} \overset{\sim}{G_7} \overset{\sim}{0} \tilde{C}$	$\overset{\sim}{0} \overset{\sim}{G_7} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{G_7}$	$\tilde{C} \overset{\sim}{G_7} \overset{\sim}{E_{m0}} \overset{\sim}{A_m}$	$\overset{\sim}{D_7} \quad \text{---} \quad \overset{\sim}{0} \quad \text{---}$
$\overset{\sim}{5} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{0}$	$\overset{\sim}{5} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{0}$	$\overset{\sim}{1} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{5} \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{6}$	$\overset{\sim}{2} \quad \text{---} \quad \overset{\sim}{0} \quad \text{---}$
$\overset{\sim}{3} \cdot \overset{\sim}{2} \cdot \overset{\sim}{3} \cdot \overset{\sim}{3} \cdot \overset{\sim}{2} \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{2}$	$\overset{\sim}{1} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{3}$	$\overset{\sim}{7} \cdot \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{3} \quad \text{---} \quad \overset{\sim}{6} \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{6}$	$\overset{\sim}{7} \cdot \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{3} \quad \text{---} \quad \overset{\sim}{6} \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{6}$
$\tilde{C} \overset{\sim}{G_7} \overset{\sim}{E_{m0}} \overset{\sim}{G_7}$	$\overset{\sim}{0} \tilde{C} \cdot \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{0}$	$\overset{\sim}{0} \overset{\sim}{E_7} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{A_m}$	\checkmark
$\overset{\sim}{1} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{5} \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{5}$	$\overset{\sim}{1} \overset{\sim}{0} \quad \text{---}$	$\overset{\sim}{3} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{6} \overset{\sim}{0}$	\checkmark
$\overset{\sim}{7} \cdot \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{3} \cdot \overset{\sim}{3} \cdot \overset{\sim}{7} \overset{\sim}{7}$	$\overset{\sim}{7} \cdot \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{3} \cdot \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{3} \cdot \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{3} \cdot \overset{\sim}{3}$	$\overset{\sim}{6} \quad \text{---} \quad \overset{\sim}{7} \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{7}$	$\# \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{2} \overset{\sim}{6}$
$\overset{\sim}{0} \tilde{E} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{B_7}$	$\tilde{E} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{E_7}$	$\overset{\sim}{0} \tilde{A} \cdot \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{E_7}$	$\overset{\sim}{0} \tilde{A} \cdot \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{1}$
$\overset{\sim}{3} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{7}$	$\overset{\sim}{3} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{3}$	$\overset{\sim}{6} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{3}$	$\overset{\sim}{6} \overset{\sim}{0} \quad \text{---}$
$\# \overset{\sim}{1} \cdot \overset{\sim}{7} \overset{\sim}{6} \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{3}$	$\overset{\sim}{7} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{1} \cdot \overset{\sim}{7} \overset{\sim}{6} \overset{\sim}{7} \cdot \overset{\sim}{1}$	$\# \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{7} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{7} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{7}$	$\overset{\sim}{6} \overset{\sim}{6} \overset{\sim}{6} \overset{\sim}{6} \overset{\sim}{6} \overset{\sim}{0}$
$\overset{\sim}{0} \overset{\sim}{E_7} \overset{\sim}{0} \tilde{A}$	$\overset{\sim}{0} \overset{\sim}{E_7} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{E_7}$	$\tilde{A} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{E_7} \tilde{C} \tilde{m} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{E_7}$	$\tilde{A} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{0}$
$\overset{\sim}{3} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{6} \overset{\sim}{0}$	$\overset{\sim}{3} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{6} \overset{\sim}{3}$	$\overset{\sim}{6} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{0} \overset{\sim}{3}$	$\overset{\sim}{6} \overset{\sim}{6} \overset{\sim}{3} \overset{\sim}{1} \overset{\sim}{6} \overset{\sim}{0}$

便利ですよ

ハーモニカを吹いた後消毒するのですが、何しろアルコールの蒸発が早くて演奏会の時など困ります。そこで透明ビニールのチャックの付いた小さい袋を買ってきて脱脂綿にアルコールを染み込ませたものを入れておきました。何と半月経ってもまだ十分使用できます。



袋は日曜大工の店で売っていますので是非一度お試し下さい。

後藤 貞男

☆ この”便利ですよ”欄にちょっとした工夫等を投稿下さい。

編集局

楽しきかな、わがハーモニカ人生

酒井 涼爾

第七話 ハーモニカで結ばれた 日本兵士と中国少年の死

戦場のどこの部隊にもハーモニカのうまい兵士が一人くらいはいた。そして一本くらいのハーモニカが必ずあって（私は六本携行したが）、兵隊達の望郷の気持ちや荒んだ心を慰めたり癒すのに、どれほど大きい役割をはたしたかは、年輩の諸兄ならば経験されたと思う。

この物語は昭和17年春、任官して間もない私が中国の任地で、同じ居室のS少尉とは彼の誠実な人柄からすっかり親しくなったが、ある日居室で私が久しぶりにハーモニカを取り出して吹いた。聴いていた彼は、やがて原隊（隼第40師団の徳島編成の歩兵部隊）における、兵士と中国少年のハーモニカにまつわる悲しい物語をポツリポツリと語るなのであった。

昭和15年初秋の頃であった。第40師団（指令部、戊寧）は、第6師団（指令部、岳州）と共に、中国の武漢から南へ延びる甯漢線に沿った最前線に布陣し中国第9戦区の数十万の中国軍と新墻河をはさんで対峙していた。その頃は幹部候補生だった彼の所属部隊は、沢山の分哨に分散していたが、ここ一年ほどは敵の攻勢もなく平穏な日々が続いていた。

C橋分哨は分哨長のN軍曹以下15名であるが、そのなかの千葉一等兵はハーモニカを一丁所持していた。温和な彼は目立たない万年一等兵であったが、ハーモニカを手にとると人が変わったように生き生きとなり、我流ながら「天然の美」や「ドナウ川のさざ波」などを吹いて、無聊に苦しむ分哨の兵隊達を慰めていた。なぜか彼は小学唱歌の「里の秋」がとくに好きで、ゆっくりしたテンポのこの曲は農村出身者の多い兵隊達を望郷の想いの中に誘い、口ずさむのであった。そしてしばし水のような沈黙が流れるひとときをつくるのであった。

ある日、一キロほど後方の部落に野菜や鶏・卵などを購入に行った千葉一等兵らが、12、3才の小孩（少年）を連れて帰った。分哨長が『なんだその汚い小孩は』ときくと、千葉は『部落で食べ物を盗んだとかで袋叩きになっているので可哀相なので拾ってきました』。

なるほど見れば、小孩の汚れた顔に赤黒く一筋の血がこびりついていて、ネズミ色の汚れた衣服も片袖が取れかかっていた。『臭い小孩を拾ってきたもんじゃ』と顔をしかめる兵士もいたが、ニンニクを常食とする中国人特有の体臭だけでなく、不潔さからくる臭気のようなものであった。

『何で盗みなんかしたのだ。』と訊くと小孩はポロポロ涙を流した。小孩はここから100里南の長楽街に父親と住んでいたが、戦争で仕事もなくなった父親が、漢口に稼ぎに行ったまま帰らないため、生活ができないので父親を探しに家を出た。途中持っていた食料もなくなり、空腹のあまり部落の農家の庭に乾してあった芋を盗んだのが見つかって殴られた、との事情を話した。

千葉一等兵は『今晚の飯は自分は欠食してもいいから、この子に食わせてやって下さい』と分哨長に哀願した。そして週に一回ぐらいのドラム缶の風呂であったが、兵隊の入った後に小孩を入れて千葉がゴシゴシ洗い、汚れた衣服も洗い、慣れぬ手つきで破れを繕い、それはまるで母親のようであった。風呂から上がった小孩が千葉の襦袢（兵隊のシャツ）を着、長い袖をまくし上げているのは滑稽であったが、兵隊達がアッと驚いたのは、小孩が意外にも色の白い愛くるしい少年に変身したことであった。空腹を満たし、屋根の下で温かい兵士の間にもぐり込んだ小孩は久しぶりに安堵の夢を結んだであろう。

翌日千葉一等兵は小孩に『元気でな』とわが子を旅立たせる母親のような気持ちで送り出そうとした。小孩も立ち去り難いかいつまでモジモジしていた。兵士の中から『漢口まで何百里も歩かせるのは可哀相だ。しばらく分哨の苦力として置いてやったらどうだろう。』と言う声が出た。分哨長も『そうだな』と頷いた。小孩は思わず『真的鳴？』（本当？）と叫んで目を輝かせた。この瞬間から小孩は分哨の一員となったのだ。

小孩は実によく働いた。水を汲み、炊事を手伝い、食料の購入、兵隊の洗濯までコマネズミのように喜んで動きまわった。片言の日本語もまじり、それからの分哨は笑いの絶えないホノボノと家庭のようになった。兵隊達は小孩を可愛がり小孩も兵隊達によく親しんだが、わけても千葉一等兵には親のようによくついていた。そして千葉を『千先生』（チェンシェンション）と呼んでいた。千葉が照れて『先生と言うなよ、チバと言え』と教えると小孩は『だってチバなんか言えないよ』と目をむいた。鶏巴（チバ）とは中国語で男性のシンボルのことであるからだ。

千葉は小孩に愛唱歌の「里の秋」やハーモニカの吹き方を教えたので、夕食後のくつろいだ時などに千葉がハーモニカを吹くと、小孩がこれに合わせてたどたどしく「里の秋」を歌った。

こんなことから千葉は小孩に里野秋夫と言う日本名をつけた。兵隊達も『アキオ、アキオ』と呼んで弟のように可愛がった。

平穏な日が数カ月続いた初冬のある夜、部落民から数名の遊撃隊が物資の徴発に来ていると報告された。早速千葉一等兵ら6、7人の兵士が部落に急行した。ところが途中の丘陵からチェコ機銃をまじえた敵の一斉射撃を受けた。数十名の敵らしい。夜とは言え青白い冬の月明かりでは身動きできず、兵士達は傍らの小川に飛び込んで身を隠した。氷のように冷たい水に膝までつかり弾丸を避けているものの、兵士達には数時間に感じながら耐えた。

銃声をきいた分哨から救援隊が駆けつけ、丘陵の敵に擲弾筒を撃ち込み、その轟音に敵は退却した。人員点呼すると一名足りない。千葉一等兵であった。彼は頭を射ち貫かれ小川の岸辺に斃れていた。思いもよらぬ犠牲者を出し、遺体を戸板に乗せて分哨へ戻る兵士達の足どりは重かった。

翌日分哨の近くの原っぱで千葉の遺体は火葬に付されたが、アキオは『千先生 死亡、千先生 死亡』と泣き叫んでいた。遺体が灰になるには夕方までかかったが、その間アキオは離れようともせず、食事もとらず、燃えさかった火はやがて消えるまで眺めて泣いていた。

千葉一等兵の遺骨は、彼の飯盒の中に納められ、「盡忠報 千葉一男君」と墨書した汗で汚れた日章旗に包まれ、居室の棚に安置された。

戦友のA一等兵が千葉の遺品を整理していると、アキオが『形見にハーモニカを下さい。』と言ってきかないので、分哨長に相談すると『千葉の霊もきっと許してくれるだろう。』と言った。アキオは千葉の戦死後一度も見せなかった笑顔を見せ懐へ大切にしまいこんだ。

中隊本部から来た食糧輸送のトラックで遺骨は本部へ送られた。その夜糧秣と共に届いた僅かの酒でささやかな会食が開かれた。二人に一合ほどの僅かの酒にも分哨は幾分明るさを取り戻した。誰かが「里の秋」を歌い出すとみんなの合唱になり、アキオもたどたどしくハーモニカで合せるのであった。まるで千葉が生きているように。

静かな 静かな 里の秋
おせどに木の実の 落ちる夜は
ああ 母さんとただ二人
栗の実煮てます いろいろばた

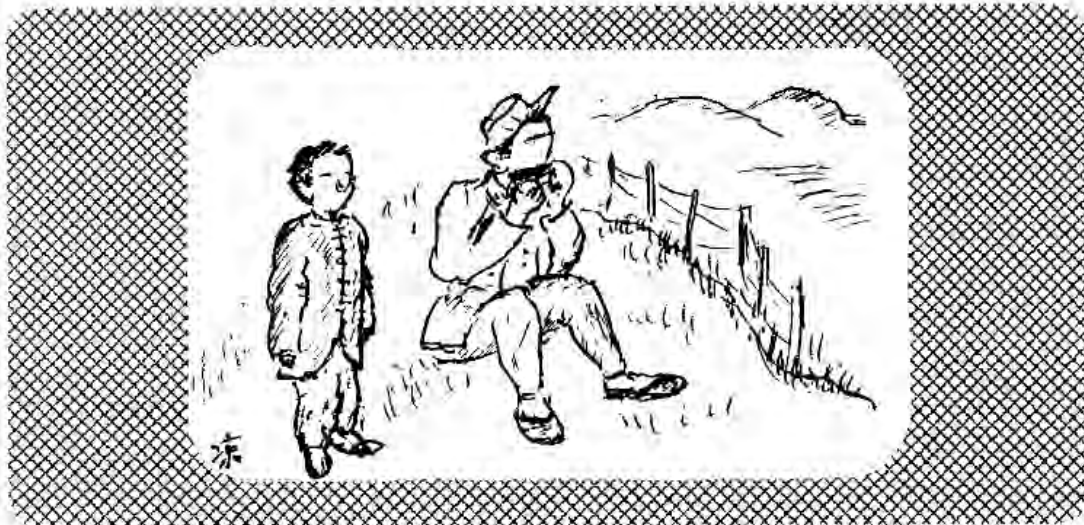
『ウッ ウッ』とA一等兵の歌声が嗚咽に変わった。兵士達も泣くまいとこらえながらヒゲ面を涙で光らせていた。

その翌日からアキオは分哨から姿を消した。そのうち帰ってくるだろうと軽く考えていたが、翌日もその翌日も姿を見せなかった。

一週間ほどして農民がアキオの死を告げてきた。分隊長らが現場に急行すると、あの夜の戦闘のあった丘陵の間を流れる小川の水にうつぶせになって漬かっていた。遺体を引き上げて見る顔は漂白されたように青白く、瘦せ細っていたがその手にはハーモニカがしっかり握られていた。

傷らしいものはなく、こんな浅い小川で死ぬことは考えられなかった。もしかするとこの一週間は何も食べず、千葉一等兵が戦死したこの辺りをさまよい歩いたあげく、水を飲みに小川に入ってそのまま斃れてしまったものと推定するほかはなかった。

千葉一等兵の後を追った中国少年の心情は、兵隊達の心を強く打った。そしてまた一つふえた悲しみと、戦場の空しさに兵隊達は言葉も出なかった。晩秋の空を、南へ翔ぶ雁の列が、戦争とはかわりないように過ぎ去って行った。それは兵隊達の故郷の「里の秋」に見られる情景と同じものであった。



語り終わったS少尉はホッと大きく一息ついた。胸をしめつけられるような感動で聞いていた私は、国は異なっても人間同志の情愛は異なるものでなく、そして「ハーモニカを愛する人は、心温かき人」であることをしみじみ思うのであった。

関西ハーモニカ連盟常任顧問
関西ハーモニカポップス会長

今後の予定

平成6年6月25日(土) 午後2時から

第8回 アンデパンダン・ハーモニカ コンサート
主催 日本ハーモニカ芸術協会 関西支部連合会
後援 全日本ハーモニカ連盟
関西ハーモニカ連盟
ところ 京都アスニー
京都市中京区丸太町通り七本松西入る
TEL 075-802-3141
連絡先 06-624-5606 仲村、まで

平成6年7月28(牧野公民館)、29日(津田公民館) 午後7時開演

枚方、牧野ハーモニカ・コンサート
出演 ◇ファンタステック・ハーモニカ・カルテット
トロンボーン・ハーモニカ 岩崎重昭 クラリネット・ハーモニカ 森本恵夫
エド・ハーモニカ 大矢博文 バス・ハーモニカ 平井 武
1991年 世界コンテスト優勝
◇アソレ・カルテット
クラリネット・ハーモニカ 井上初美 トロンボーン・ハーモニカ 岩部道央子
エド・ハーモニカ 小林希代江 バス・ハーモニカ 柳川優子
1990年 全日本コンテスト優勝
1991年 世界コンテスト・ジュニア部門優勝
曲目 ウィリアムテル序曲・チャールダッシュ・ハンガリー舞曲第5番
クラリネットポルカ・おもちゃの兵隊の行進・アイトラの踊り
月の砂漠・愛の賛歌・舟唄・枯葉・母さんのうた他
問い合わせ先 宇佐美 進
TEL 0720-57-2077
枚方市招堤南町2-7-15 〒573
次ページへつづく

平成6年7月中旬

弘済院特別養護老人ホーム 訪問演奏(予定)

主催 北千里ハーモニカ・ファミリー

問い合わせ先 畑 婦美子 TEL 0797-31-7644

平成6年7月30日(土) 夜 7時から8時30分

ベトナムの子供を守る会、チャリティ・コンサート

入場料 500円

会場 富雄 カローラ・アベニュー

出演 上本 洋

問い合わせ先

上本 洋 TEL 0742-43-7738

平成6年7月末日(予定)

民謡まつり(三味線と合奏)

会場 西宮福社会館

出演 尼崎ハーモニカ・エコーズ

曲目 りんご節 石投甚句 串本育ち 十日町小唄 古城

ちゃんちきおけさ他

平成6年9月23日(金:秋分の日)

第5回 関西ハーモニカ祭り

主催 関西ハーモニカ連盟

後援 全日本ハーモニカ連盟 日本ハーモニカ芸術協会

ニッポン・ハーモニカ・クラブ

FIH世界ハーモニカ連盟日本支部

場所 兵庫県民会館

神戸市中央区下山手通4丁目16の3 〒650

TEL 078-321-2131

出演者募集中!!

平成6年9月中旬予定

大庄地区公民館まつり

主催、場所 尼崎市立大庄公民館

出演 尼崎ハーモニカ・エコーズ

問い合わせ先 村上浩一 TEL 078-621-0414

平成6年10月22日(土) 予定

第9回 たのしい ハーモニカコンサート

主催 尼崎ハーモニカ・エコーズ

会場 尼崎市立大庄公民館

問い合わせ先 村上浩一 TEL 078-621-0414

平成6年11月18日(金)

関西ハーモニカ・ポップス 第19回定期演奏会

会場 大阪 朝日生命ホール

平成7年10月10日~13日

ハーモニカ渡来100年記念行事

「国際ハーモニカ・フェスティバル'95」

場所 パシフィコ横浜

世界各国から延べ1万人の参加者を迎えて開催される日本で初めての国際大会です。

内容は、国際コンテスト 著名演奏家の演奏 レクチャー等が予定されています。

この行事を推進する為、「日本ハーモニカ推進協議会」が設立されました。

関西でもこれに呼応し、100年記念協賛のコンサートが開催される予定です。

お願い

今後このページには各教室等の予定をできるだけ掲載する予定です。まだ掲載されていない教室は奮って計画を編集局あてFAXまたは郵送お願いいたします。必ずしも詳細決定されていなくても、確実に行われる行事であれば結構です。

原稿には写真、カット等を添付していただくと幸いです。できるだけ掲載致します。

今回は新年号と春号の合併号と致しました。今後は遅滞なく、まず夏号を出したいと思えます。今後とも変わらぬご協力のほど、お願い申し上げます。

編集局

関西ハ一モ二カ連盟

平成6年6月発行

第119、120合併号

発行責任者 理事長 仲村 眞

〒545 大阪市阿倍野区三明町2-6-10

発行者 事務局長 新井 善久

〒600 京都市下京区花屋町通西洞院

東入 563

編集局 後藤 貞男

〒596 岸和田市春木旭町36-17